

# 「学ぶ」を支える 場づくりのコツ

～学習支援運営ハンドブック Vol.2～

NPO法人 場とつながりの研究センター





# はじめに～学習支援を始めてから、これからのあり方を見直したいとお考えのあなたへ

学習支援を立ち上げた「その後」を一緒に考えてほしい、という相談を受けるようになりました。学習環境は作ったものの、十分に子どもは学ぶことができているのだろうか？ 本当に来てほしい子どもは来れているのだろうか？ スタッフに気疲れや空回り感が出てきていないだろうか？ そして、活動を長く続けるために運営面でどのような工夫が必要なのか？ -活動を始めたからこそ気づいたこと、より発展させたいことを整理するためのお手伝いができればと思っています。

この冊子は、学習支援の活動を振り返るポイントを私たちになりにまとめたものです。ワークシート形式になっているので、団体が必要とする部分を穴埋めとして使ったり、別の紙に大きく書き直したりしてお使いください。リーダーひとりで取り組むよりは団体のみなさんと一緒に取り組んだほうが効果は大きいですし、可能ならばメンバーとは別にファシリテーター（進行役）を置いて取り組んでみてはいかがでしょうか？ 本書が悩みごとを整理し、考えなおすきっかけとしてお使いいただければと願っています。

## 目次

### セルフチェック

#### 第1章：子ども編

- 1.1 子どもが集まらない
- 1.2 子どもが勉強に集中しない  
【コラム】発達障害と家族支援
- 1.3 教材を買う資金的な余裕がない

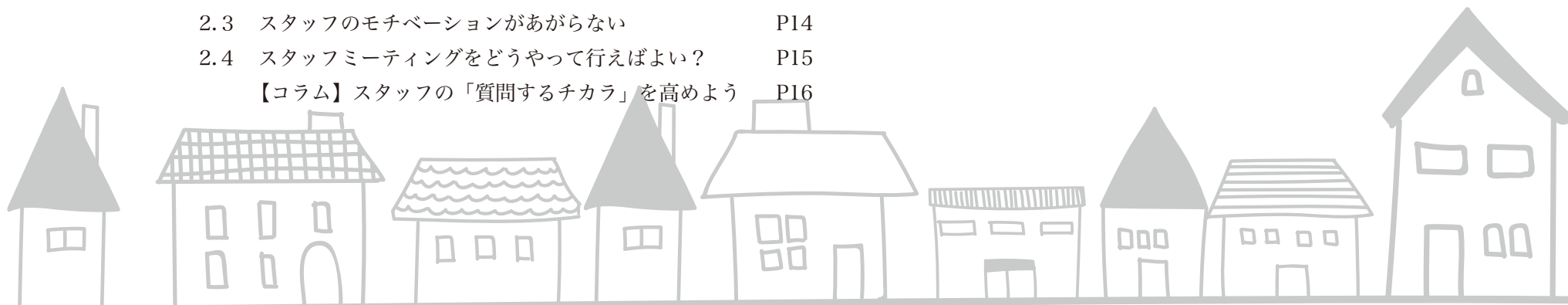
#### 第2章：スタッフ編

- 2.1 スタッフを増やしたい
- 2.2 スタッフのスキルアップをしたい
- 2.3 スタッフのモチベーションがあがらない
- 2.4 スタッフミーティングをどうやって行えばよい？  
【コラム】スタッフの「質問するチカラ」を高めよう

#### 第3章：組織マネジメント編 P17

- 3.1 資金集めをどうする？ P18
- 3.2 支援者をどうやって集める？ P20  
【コラム】さまざまな資金調達の方法を活用しよう P22
- 3.3 地域のさまざまな資源と繋がるには？ P24
- 3.4 活動する上での「リスク」を考えよう P26  
【コラム】しんどい思いをしている子どもが  
これ以上増えないように P28

#### 第4章：おわりに P29



# セルフチェック まずは、「わたしたちの取り組み」を見つめ直してみましょう！

## 1. きっかけ

- ・活動を始めたきっかけは何でしたか？  
どんな子と出会ったか、印象に残ってることはありますか？
  
- ・その時、どんなことを思いましたか？
  
- ・私が取り組もうと思った「地域」はどんなところですか？
  
- ・その子がどうなってほしいと願って活動していますか？

## 2. 子どもの視点

- ・どんな子に参加してほしいと思って活動を始めましたか？
  
- ・参加する子がどのような力を身につけてほしいと設定していますか？
  
- ・参加者をどのように募集していますか？  
子どもにつながるキーパーソンはいますか？
  
- ・学習会を開催する上でどのような工夫をしていますか？

### 3. スタッフの視点

- ・学習支援の場にどんな役割が必要だと思っていますか？
- ・スタッフを集める時に、どんな人に声掛けをしていますか？
- ・スタッフの満足度を、どのように確認していますか？

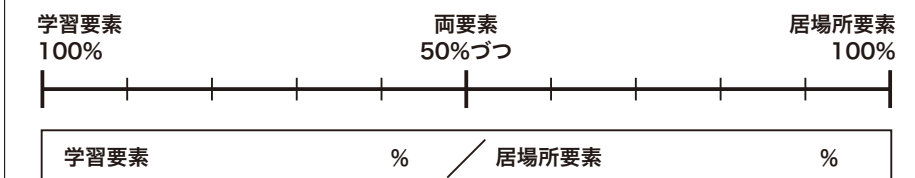
### 4. マネジメントの視点

- ・活動続けるにあたって、予算はどのぐらい必要ですか？
- ・どんな人が応援していますか？（資金・物資・ボランティアetc）
- ・地域にいる、どのような人や組織と関わっていますか？

### 5. 1～4 を踏まえて、現状の実施スタイルをまとめてみましょう

開設している 日にち・曜日	
時 間	
場 所	
参加費の有無	
参加者の 人数と特徴	
学習支援スタッフの 人数と特徴	
運営スタッフの 人数と特徴	
スタッフの 謝金の有無	

#### 学習要素と居場所要素\*とのバランス



\* 子どもにとってのんびりできる雰囲気を重視している場づくり

一人ひとりに寄り添える  
学習支援の場にするには？

## 第1章

# 子ども編

学習支援の場にやってくる子どもたち。多様な背景や動機が混じり合う中で「一つのまなびの場」を生み出していくために、どのようなことを意識すればよいのでしょうか？私たちスタッフにできることはどのようなことでしょうか？

この章では、「学習支援の現場で起こる子どもに関する困りごと」をいくつか取り上げて、考えるポイントをまとめてみました。「子どもの声を聴くこと」は私たちにとって自明のことではあるが、改めて何を意識する必要があるのか、考えてみませんか？

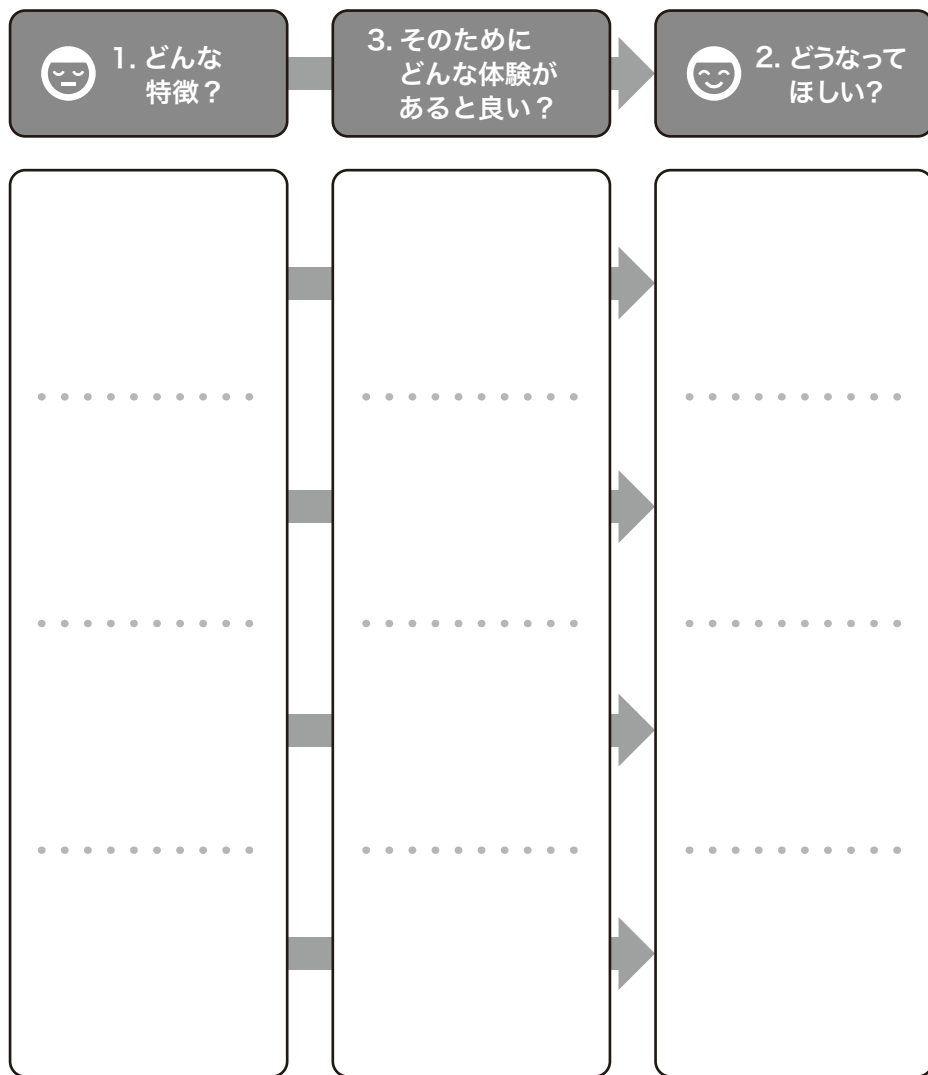
# Q1:子どもが集まらない

A:「子ども」といってもいろんな子がいます。「どういう子に来てほしいのか」を今一度考えてみましょう。



## 考えるポイント

(1)来てほしい子どもの「今」と「これから」をイメージしましょう



(2)子どもが「参加しない理由」を考えよう

「勉強が苦手、つまらないから」という言葉の裏に隠れた理由があるかもしれません。「つまらないから嫌だ」と思ってしまう背景を考えてみましょう。

項目	どんな課題がある？	参加してもいいと思えるには？
自分のこと (勉強/生活全般)		
家族のこと		
学校や 友人関係のこと		
現状の 学習支援への 参加しにくさ	時間	
	場所	
	参加者	
	雰囲気	

## Q2:子どもが勉強に集中しない

A: 子どもが勉強に集中しないことを咎めても解決にはなりません。どうして勉強に集中できないのでしょうか？  
個別に“気持ちに寄り添う”ことで、一人ひとりがどんなことを感じているか、思いを馳せてみましょう。

### 考えるポイント

#### (1)子どもを分析しよう

- ①その子はどんな環境で過ごしているのでしょうか？「エコマップ」を作って、その子の背景を見通してみましょう【参考 vol.1 ポイント④ p.18】
- ②学習支援の場で子どもたちが話していることや見聞きしたことから、その子の特徴をもっと深掘りさせてみましょう。

	特 徴	どんな場面で知った？
どんなチカラをもってる？		
懂れているものは？		
好きなこと・熱中してることは？		
大切にしている信念は？		
苦手なことは？		
乗ってこないテーマは？		
うつむいてしまう話題は？		
がんばれる支えとなっているものは？		
生活習慣の特徴は？		

その他団体で考えよう

#### (2)子どもの目標づくりを支えよう

目標は「誰かから与えられたもの」ではがんばろうという気にはなりにくいものです。「予言の自己成就」というように、自分が言ったことは実現しようと近づいていくこともあります。なるべく「自分自身で考え、決めた目標」づくりに寄り添いましょう。

チェック!

##### その目標は手に届きそうなものですか？

目標設定は、「高校受験合格」？ もう一つ先を見据えたもの？ 目標達成に向けてスモールステップを作りましょう。

##### 本人にとって学習内容は適切な範囲ですか？

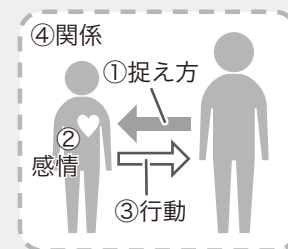
全科目まんべんなく行いますか？ 特定の科目・分野に集中しますか？ 分量はどの程度ですか？ 限られた時間の中で、学習会だからこそこできる部分はどこでしょうか？

##### 「目標－振り返り」の小さなサイクルを意識的につくろう

目標を立てて、取り組んだことを振り返り、改善を考える力をつけることは大切です。できた・できないの「分量」よりも、その過程に注目して振り返りを行いましょう。

### ミニコラム：子どもの「気持ち」に寄り添うとは

私たちは、子どもの反応・行動だけを見て、気持ちを理解しようとしてしまいがちです。しかし、子どもの「気持ち」は、様々な要因で構成されていることを忘れてはいけません。





### (3)環境設計を考えよう

学習会の部屋に入ってすぐに勉強モードに切り替えることはとても難しいこと。漫然とテキストを開いても学習するスイッチが入っていなければ頭に入ってきません。学習会の環境設計や時間の工夫をすることも考えてみましょう。

	現 状	どうありたい？
会場の広さ		
座席の配置の工夫		
スタッフや他の子どもとの距離		
いす・机の大きさ		
音響や照明		
入り口での出迎え方		
うつむいてしまう話題は？		
がんばれる支えとなっているものは？		
一日の生活リズムや習慣		

その他団体で考えよう



### ミニコラム：学習会のタイムマネジメントを考えよう

子どもの集中力は最大でも 50 分程度とされています。子どもの「気持ちの流れ」を意識した時間配分が大切です。時にはおしゃべり休憩もはさみながら ON と OFF を使い分けて時間の流れを作りましょう。

一例に、「はじめ」と「おわり」にも工夫できるポイントをまとめました。

#### ●始め良ければ気持ちも上向き！～前向きになれるチェックインの方法

さまざまな気持ちを抱えて子どもはやってきます。良い気持ちの時もそうでない時もあるでしょう。そんなとき、①スタッフと「一緒に感」をつくり、②気持ちを前向きにすること、で集中して参加できる可能性が高まります。例えば、

#### What'S GOOD/NEW!?

ここ数日のうちに経験した／初めて知ったエピソードを自由に語ります。

#### ギフトボックス

箱の中を見ずに、中に何が入っているかを推理します。学習内容と関連させると better!

#### ●目指せ、振り返り美人!？～チェックアウトで次の目標を

今日1日取り組んでの振り返りを行いましょう。「やった感」を自分で実感するとともに、次の学習会までの具体的な目標を立てることもつながられます。

#### (振り返りの主なポイント)

子ども本人の気持ちを受け止めて、聞きましょう	達成感、心配ごと、学習支援者との関係性など、本人の率直な気持ちを否定せずに聞きましょう。
今日取り組んだ分量を評価して伝えましょう	見える指標としての「量」はやはり大事。ポジティブに数量を伝えましょう。
ちょっとした変化を伝えましょう	始まる前と今との変化、前回と今回のちがいがいなど before-after を見せましょう
その上で、子どもの気持ちを改めて聞いてみましょう	子ども自身の次の目標が見えるかもしれません。また、具体的な要望・提案があれば実現に向けた検討をする旨を伝えましょう。

チェックインもチェックアウトも 5-10 分程度で十分です。入室前でも着席後でもいいですし、勉強を教える人が担っても別の人が担ってもいいでしょう。それぞれの学習会に応じたやり方を工夫してみてください。



## コラム：発達障害と家族支援

落ち着きがなく注意散漫な子、妙にこだわりが強い子、わがママや自分勝手に思い通りにならないとパニックになる子、やる気が出ない子、新しいことが苦手な子、友達との関わりで手が出たり乱暴な振る舞いをするなどトラブルが多い子・・・学習支援の現場に、「あれ、なんかこの子気になるな？」と思う場面があるかもしれません。

### 1. 発達障害ってなに？

発達障害は、脳の未発達または機能障害です。本人にとって、「感覚」を適切に受け止めてまとめあげることが上手くできないため状態です。不必要な情報にも注意が向いてしまったり、情報が整理できずにまとまらない結果、適切な行動がとれなくなることがあります。

#### 【狭い意味での発達障害の特徴】

こだわり	興味関心の偏り 嫌いなことはしない 得意と苦手が極端
対人関係が難しい	人と関わろうとしない 人とのつきあいが苦手
コミュニケーションの障害	言葉の理解と使用の誤り

#### 【感覚が上手く働いていないとはどんな状態？】

重 力	過剰に感じると…怖がり、動くことを怖がる 逆に感じないと…動き回る
身 体	じっとしていない、動きが激しい、乱暴
触 覚	過剰に感じると…触られたくない、近づかれたくない、嫌いなものが多い、 こだわりびっくりしやすい、パニックになる
聴 覚	大きな音を怖がる、高い音を怖がる、嫌いな音がある、騒がしい場所が苦手、びっくりしやすい、耳をふさぐ
視 覚	見た物にすぐ反応する、注意散漫、落ち着きがない、他の感覚がうまく働いていないためここに頼ることになりがち、こだわり、パニック

はじめにあげような「困った子」たちの中には、脳の司令塔がうまく機能しないためにとても不器用な状態になって「困っている」子もいるのです。

近年、「発達障害」という言葉が一般的になってきました。なぜ発達障害が話題になるのでしょうか。障害が目に見えにくく周囲に理解してもらいにくい、みんなと同じようにできそうでできず周囲のほうに悩んでしまう。私たち支援者としても、発達障害に対しての理解が求められます。長年発達障害の子とその家族の支援に取り組ん

### 2. 発達障害のある子どもへの対応のポイント

では、そのような子どもたちに対して、どのように対応すればいいのでしょうか。いくつかのポイントをまとめました。

#### 【基本的な対応】

なぜ？と 考えてあげましょう	嫌いなのかな？ 怖いのかな？ わからないのかな？ できないのかな？ など、本人の気持ちを推測してみ ましょう。「嫌い・怖い」ときは無理にさせず、他 のものに変える工夫が必要です。「わからない」と きは実際に動きを見せながら説明するとわかりやす く思うかもしれません。「できない」ときは、でき ることから取り組んでみましょう。
子どもに あわせてください	好きなことや繰り返すことはさせて、嫌なことや怖 がることは無理にさせないでください。
いけないことは、 優しく止めてください	大声で叱りつけなくてください。びっくりしやすいで す。なぜ、そうしたのか考えましょう。
どうすればいいのか 一緒に考えてください	同じことを「してもよい状況」を考えてみましょう。 (場所・時間・もの etc)
怒ったり泣いて しまったら、 共感して なぐさめましょう	「嫌だったね」、「つらかったね」とその感情にまず共 感することが大切です。静かな落ち着ける場所に行っ たり、本人の側にいるだけでも安心できることもある ようです。「○○したかったんだね、でもできないね」 と声をかけたりしてみましょう。
できることを/できたことを、しっかりほめてあげてください。	

幼い子どもへの対応と似ているかもしれませんね。でも、我慢と根気が必要。その子なりに上手にできることもあるので、「気になる行動」と区別して考えましょう。

でいらっしやる、さんだこども発達支援センター「かるがも園」の平井真由美さんからお話を伺ってきました。

### 3. 発達障害のある子どもの「家族」のことを想像してみましょう

子どもたちと接する私たちにとって、保護者・きょうだいと関わることはあまり多くないかもしれませんが、しかし、子どもが多く時間を過ごす「家族」が安心できる状況になかったとしたらどうでしょうか？ 学習支援の場でも落ち着いて参加できないかもしれません。

親の「気持ち」を想像しよう	きょうだいの「気持ち」を想像しよう
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日が慌ただしくたいへん</li> <li>・周りの視線が気になる。「なんて子なの？」と子どもを悪く思われないか？「躰がなっていない？」と親自身が責められないか？</li> <li>・私のことを「わかってくれる人」が近くにどれだけいるだろうか？誰に頼ったらいいのだろうか？</li> <li>・きょうだいに「後回しにしてごめんね」と思いつつも、きょうだいだけでもしっかりしてほしいと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正直自分も「被害者」</li> <li>・親の大変さを見て育っているので、親に迷惑かけたくない。自分は二の次と過剰に思って、「いい子」になろうとしてしまう。</li> <li>・本当はかまってほしいけど、素直に甘えられない。つい「荒れる」ことで気持ちを表現してしまうことも</li> <li>・「後回しにしてごめん」と思っている親の姿を感じて、本当の気持ちを一層言っはいけないように思う。</li> </ul>

甘えたくても甘えられない子ども、甘えさせたくても甘えさせられない親・・・ぎくしゃくとした関係が続くと、スパイラルのように家族もろとも悪循環に陥ってしまうかもしれません。こんなとき、どうすればよいのでしょうか？

かるがも園では、親子が素直に愛情を示しあえる機会を作るために、保護者研修やきょうだいのためのデイキャンプなどを開催しているそうです。親の愛情を感じ、親以外の大人からも愛情を感じることで「自分も一番に愛されている」と思えるために、そして障害のあるきょうだいを好きでいられるために、きょうだい・家族全体を支援するという視点も大切です。

### 4. 地域の大人ができることを考えよう

発達障害を持つ子ども、そしてその家族と出会ったとき、学習支援の場に携わる私たちにどのようなことができるでしょうか。そして、そのような家族が気軽に「助けて！」と言えるようになるために、私たちの暮らす地域の大人にどのようなことを伝えればよいのでしょうか？

まずは、優しく声をかけてみましょう。話を聴いて、思いを馳せてみましょう。障害のある子どもにも、きょうだいにも、親にも「優しくなれる」ために、どのようなことができるかを一緒に考えてみましょう。

家族に寄り添うときに最も大切な姿勢は、「自尊心を支える」という視点です。

#### ○社会的(Social)自尊心

→できたことをほめられる。条件付きの不安定な自尊心。

#### ○基本的(Basic)自尊心

→存在そのものを認めてもらえる。無条件で安定した自尊心。

しっかりとした基本的自尊心の上に社会的自尊心が積み重ねると、安定した状態になります。まずは、基本的自尊心を支える＝ありのままの自分を受け止めてくれる大人が家族以外にいることは、誰にとっても心強いことでしょう。

#### ●障害を持つ子のきょうだいの基本的自尊心を支えるコツ

- ・障害のある子どものきょうだいである前に、一人の子どもです。その子自身を認め、ほめましょう
- ・「障害のある子どものきょうだい」という役割を押し付けしないでください。
- ・障害のある子どもの世話をしたときに、必要以上にほめすぎないでください。
- ・障害のある子どもが困ったことをしたときに我慢させすぎないでください。自分のことをしていいよ、好きなことをしていいよ、と伝えましょう。

## Q3:教材を買う資金的な余裕がない

A: 勉強に身が入らない背景を見通すことを通して、子どもの気持ちに寄り添うことがまず大切です。とは言っても学習会の場ですから、スタッフの負担にならない程度に何らかの学習の機会は準備しておく必要があります。

### 考えるポイント

#### (1)教材を集めよう

どんな教材が必要ですか？予算がなくても、地域には“眠っている”教材があるかもしれません。声をだすことは勇気がいりますが、教材募集の願いを思い切っ  
て試みてはどうでしょうか？特に、受験の終わる3月前後が狙い目です。また、地域活動を支援するNPO支援センターやボランティアセンターが発信のお手伝いをしてくれることもあります。

#### (2)身近なものを「教材」にしてみよう

机に座って行うだけが学習ではありません。スタッフの人数に余裕があれば、会場の外を散歩してみてもいいかもしれません。身近な自然の中に「教材」はたくさんあります。どうしてこの家はこんな形をしているのだろう？この花だけ色がちがうのはなんでだろう？スタッフがひとりの人間として興味・関心を持っていることを投げかけてみるのもいいかもしれません。会場の周りの環境の特徴をリストアップしてみましょう。

### ミニコラム：「子どもの情報」をどこまで知る？

学習支援の場を通してさまざまな「情報」を得ます。子どもや家族との会話の中から自然と得られるものであったり、気

になることを意図的に尋ねることもあります。知り得た情報について、みなさんはどのように取り扱っていますか？

#### 1. 「個人情報保護法」を知っておこう

「個人情報」といふことばがあります。個人情報とは「生存する個人に関する情報で、特定の個人を識別することができるもの」で、氏名・住所・生年月日、顔写真などもその対象です。2015年9月に個人情報保護法が改正され、個人情報を誌面やパソコンで名簿化するなど、データベース化して活動に利用している団体であれば、法人でも任意団体でも、規模の大小、営利・非営利問わず法令遵守が義務付けられるようになりました。

#### 2. ルールをみんなで共有しよう

スタッフミーティングなどで、さまざまな個人情報が飛び交っていることでしょう。学習支援の現場で知り得た情報は外部に漏らさないことは当然のことですが、明示化するためにボランティアスタッフに誓約書を求めている団体もあります。個人情報漏洩はグループの信用問題につながります。個人情報を取り扱う際の基本方針を団体内で確認しておくようにしましょう。

【参考】個人情報保護委員会  
<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/>



### 注意！：教材のコピーと著作権

学校等の教育機関で、先生が自分の授業で他人の著作物を複製して利用することは、一定の条件の下に著作権者の了解なしにできることになっています（著作権法第35条）。しかし、学習支援をはじめとした民間事業は営利・非営利を問わず著作権者の了解を得ることが必要です。

なお、公民館は「学校等の教育機関」に該当するため、公民館主催事業においては一定の条件の下に著作権者の了解なしに複製して利用することができます。

【参考】文化庁「著作権なるほど質問箱」  
<https://pf.bunka.go.jp/chosaku/chosakuken/naruhodo/>



子どものまなびを支える  
スタッフをどう育てる!?

## 第2章

# スタッフ編

学習支援の場は、子どもとスタッフとが織りなす「ハーモニー」。子どもの意欲や雰囲気づくりには、スタッフの「態度」がとても大切です。一方で、子ども同様に参加するスタッフにもさまざまな動機があります。「子どもの成長」という錦の御旗が、スタッフ一人ひとりの感情を見えなくさせてしまっていないか、注意したいところです。

この章では「スタッフ育成」をテーマに考えるポイントをまとめました。スタッフ一人ひとりの気持ちに寄り添うためにはどのようなことを考えればよいのでしょうか。スタッフの振り返りやミーティングの活かし方についても考えてみましょう

# Q1: スタッフを増やしたい

A: まず、学習支援の場にどんな「役割」が必要かを考えて、それから募集をかけましょう。



## 考えるポイント

「学習支援の場」の中にも、必要とされるさまざまな役割があります。教科を教える人、雑学や身の回りのできごとを伝える人、子どものポロツと出てくる思いを受け止める人、記録を取る人、教える人を支える人、活動をまわ

りに伝える人・・・さまざまな人が協力して学習支援のプロジェクトは動いています。自分たちの取り組みに「必要な役割」をなるべく細分化し、性別・年代・経験などの視点も合わせて考えてみましょう。

	どんな役割が必要？	何人必要？	どんな経験があると役に立ちそう？	その人は参加してどんな喜びが得られそう？	その人は仲間にいる？ いないならば、誰が知っていそう？	優先順位は？
教える人						
聞く人						
裏方						

その他団体で考えよう

## Q2: スタッフのスキルアップをしたい

A: 学習支援の場では、教える力・子どもと関わる力・言葉のかけ方や子どもの声を聴く力(コミュニケーション)など、多様なスキルが求められますが、全員がすべてを完璧にこなす必要はありません。

団体として大切にしたい「共通の土台」をまず整理し、個別スキルはスタッフ間で役割分担しながら取り組みましょう。



### 考えるポイント

(1) 学習支援の場で、団体として大切にしたい「価値」はなんですか？



(2) 学習支援の現場で具体的に気になった事例・困りごとを思い出し、どんな「スキル」が必要かを考えてみましょう

どんな困りごとがあった？	どうなれば良い？	それを解決するには どんな力量や情報が必要？	どんな人が詳しい？	どのように身につける？

## Q3: スタッフのモチベーションがあがらない

A: 一緒に活動していると「みんなの考えは同じ」とつい思ってしまいがち。当たり前のことですが、一人ひとりの思いは異なります。思いに寄り添って、それぞれが大事にしたいことを改めて確認してみましょう。

(1) そのスタッフの「活動に関わったきっかけ(思い・できごと)」は何でしたか？

(2) そのスタッフにとって「活動に関わることで得られる楽しさ」は何ですか？

(3) 団体がそのスタッフに「期待している役割」は何ですか？

(4) 思いのズレやスタッフの気持ちを知るために、どのような機会がありますか？

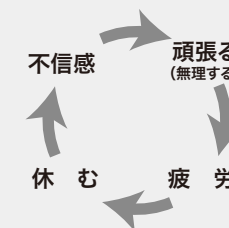


### ミニコラム：何気なく潜んでいる「パワハラ・モラハラ」

立場を盾にメンバーに何かを強要する「パワーハラスメント」。ことばや態度などによって人の心を傷つける「モラルハラスメント」。このような精神的な暴力は私たちとは無縁、と思っている団体も多いでしょう。しかし、ボランティアやNPO活動は「思い」が活動の原点にあるがゆえに、無意識のうちに「思いの強要」につながっていることが多々あるので注意が必要です。

#### 「自発性のパラドックス」を理解しよう

ボランティア活動の原点は「自発性」です。その人なりにもった思いから活動を「がんばり」、継続・発展していきます。しかし、がんばり続けると「疲れる」こともあって「休む」のですが、人手不足の団体は休まれると困ってしまい、「期待していたのになあ」とその人に対して「不信感」を抱きます。スタッフは不信感を取り除くために無理してでもさらに頑張ろうとしてしまい、また疲れてしまい、を繰り返し、がんばる人ほど辞めてしまう—そのような悪循環のことを「自発性のパラドックス」といいます。



#### 団体の思いは大切だが、個人の思いも同じように大切に

このような「思いをベースにした雰囲気」そのものが見えないプレッシャーとなっている可能性があります。効果的な解決策はなかなか見つかりにくいのですが、一人ひとりが気持ちを率直に語れる機会を作り、ねぎらいと感謝の気持ちを伝えるところから始めてみませんか？



## Q4: スタッフミーティングをどうやって行えばよい？

A: 何をすればいいのかわからずしゃべって終わっている、決めたことが行われないどころか覆ることすらある、ミーティングの場がいつも暗い雰囲気だ・・・など、ミーティングに関する悩みごとは尽きません。一人ひとりの大切な時間を使って行うからこそ、ミーティングそのものが後ろ向きにならないための工夫をしましょう。

### 1. そもそもなんでミーティングするの？をみんなで共有しよう

メンバーの顔合わせ・親交を深めたい、それぞれが見ている子どもの情報をまとめたい、何か行動を決めたい・・・ミーティングにはさまざまな目的や動機があります。参加者全員が納得してから始めましょう。

### 2. ミーティングの「共通ルール」を確認しよう

ミーティングの目的をより深く達成するために、参加者が守ってほしい共通ルールをはじめに確認しましょう。共通ルールは団体の雰囲気や大切にしたい価値が表れます。納得できるような共通ルールを考えましょう。

#### 共通ルールの一例

- ・お互いを尊重し、聴き合おう。
- ・少数派の意見も大切にしよう。
- ・演説禁止。時間を守ろう。
- ・否定せずアイデアを上乘せしよう。
- ・突飛なアイデアも歓迎。
- ・知り得た情報は胸のうちに。

### 3. 終了時間を確認しよう

終了時間をはじめに確認しましょう。やむを得ず延長する場合は、参加できない人に不利益とならないような配慮を必ずしましょう。

### 4. ミーティングで話す内容をはじめに出して優先順位を決めよう

ミーティングで取り扱うテーマを、最初に全部出してしましましょう。参加者一人ひとりにも話したいテーマがないか確認します。しかし、全部取り扱うことはできないので「絞り込み」も大切。優先順位を決めて「今回は外す」決断も必要です。テーマを「共有すること」と「決定すること」に分けて、まずは「決定」のほうから優先順位をつけて取り組むことが望ましいです。なお、子どものケース会議を行う場合は、活動ミーティングとは別に行ったほうが良いです。

### 5. 意見やアイデアの拡散と集約を使い分けよう

実現可能性は脇において考えやアイデアをたくさん出すことに専念する時間、出てきた考えやアイデアから絞り込む時間、と「拡散と集中」を使ってミーティングの流れに変化をつけることができます。時間を決めて行うのがポイントです。

### 6. 決まったことを共有し、次の行動を確認して終えよう

バタバタ終わるのではなく、最後に今日のミーティングの振り返りを行いましょう。そのときに、決まったことについては必ず「いつまでに」と「誰が」、「何をする」を共有しましょう。

### ミーティングにちょっとした変化をつけるためのポイント ～困ったときはぜひチャレンジしてみよう！

#### ①一言ずつしゃべってから始めよう

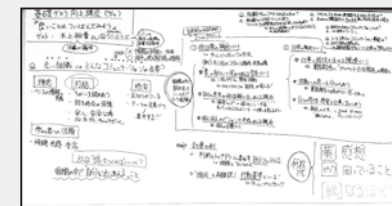
「口のウォーミングアップ」として参加者が一言ずつ話すと、その後も話しやすくなります。ただし、しゃべりすぎに注意。

#### ②議論が停滞したら少人数化

近くの人 2,3人で話すなど少人数トークの時間を設けることで、あまり発言のなかった参加者の声を引き出せます。

#### ③ホワイトボードを活用しよう

話した内容が参加者に見えるよう記録すると議論が落ち着くことも。写真を撮って議事録代わりにもあります。





## コラム:スタッフの「質問するチカラ」を高めよう

私たちは物事を理解するために「質問」をします。しかし、意図していた答えが引き出せなかったり、質問することでかえって萎縮させてしまうようでは逆効果です。

質問には、事実を確認するだけでなく、何かをより良い方向へ変える可能性があります。より良い可能性を秘めた質問の仕方をメンバーで考えてみましょう。

### ポイント1 「相手が答えやすい質問をする」

相手から価値ある情報をもたらすときは、相手の立場に立って相手が答えやすい質問をするのが鉄則です。以下のようなポイントを押さえた質問になっているか、確認しましょう。

- 質問の目的は？ (目的によって聞き方・手段も変わるため)
- この質問をするのに最適な相手だろうか？
- 質問に適したタイミングはいつだろうか？
- 質問の内容は最適か？ 他にもっと良い質問はないか？
- 相手が答えるのに負担になっていないか？

#### 【ダメな質問のパターン】

- ネガティブな質問:相手に否定的な考え方を強制してしまう。「どうしてできないの?」
- 答えのない質問:質問に見せかけて叱責と謝罪を求めている。「なんで忘れたの?」
- 相手の答えを即座に否定する、刑事の尋問調な聞き方 など

### ポイント2 「オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを組み合わせる」

「はい、いいえ」、「A か B か」で答えられるような、回答範囲を限定した質問の仕方をクローズドクエスチョン (CQ) といいます。これに対し、「どう思うか?」などのように、制約を設けず相手に自由に答えてもらうような質問の仕方をオープンクエスチョン (OQ) といいます。

CQ は事実確認をしたい時に効果的ですが、それが続くと会話が停滞してしまいがちになります。一方で、OQ は話し手が自由に回答することができるため、幅広い答えを引き出したいときや考えを深めてほしいときに活用でき、質問された方は自分では考えていなかったことを考えるきっかけになる、といった効果があります。

主なオープンクエスチョン=6W3H

when(いつ), where(どこで), who(誰が), whom(誰に), why(なぜ),  
what(何を), how(どのように), how many(どれぐらい), how much(いくらで)  
話を広げたいとき=what, how, why、たくさん引き出したいとき=how、  
具体的に出したいとき=what, how many, how much

### ポイント3 「なぜ(why)を使わないで質問をする」

「なぜ」という問いは、論理的に答えを突き止めながら問題の核心に迫ろうとするときには強力で、具体的にイメージして答えようとするときには不向きな質問です。また、叱責のニュアンスが含まれた問われた方をすると、人間は「言い訳」を考えてしまい、聞きたいことにたどり着けないことがよくあります。そこで、「なぜ」と聞かないような質問に言い換えることが大切です。

### ポイント4 「質問を通して、相手を“その気”にさせよう」

私たちは相手に何か良い変化があることを期待して質問をします。相手の自尊心を傷つせず、自分の意見を押し付けずに質問するには、「前向きな質問」に変換することが大切です。質問されることで相手が「すすんで動きたくなり」、「じぶんごと」に思うようになると、組織自体が活性化します。

例題① 「どうしてそんなに怒っているの?」「なんでこんなことができないんだ?」を、「なぜ」を使わずに質問する方法を考えてみましょう。

例題② 子どもと一緒に「学習目標」を立てましたが、あまりその気になっていないようです。子ども自身に考えてほしいと思っているとき、どう質問をしますか?

グループのみなさんで考えを出し合ひましょう

しなやかに続けられる  
活動のコツとは!?

## 第3章

# 組織マネジメント編

子どもたちのまなびの場を継続させるために、さまざまな「資源を集める」ことが必要になります。資金のこと、スタッフや支援者のこと、情報のこと、そして活動の必要性を発信していくこと— これらの取り組みを通して社会の注目を集め、そして課題解決に向けたエネルギーを手繰り寄せていくことが、継続的な運営に求められます。

本章では、組織を運営するために考えるポイントをまとめてみました。お金のことを考えるのは非常に悩ましく、つい気持ちや思考が閉じてしまいがちです。組織のメンバー一人ひとりがもっている経験や知恵を活かす方法を考えましょう。

# Q1.資金集めをどうする？

利用者からお金を得る(対価性財源)ことが難しい場合、「支援者」を探して集める必要があります。支援性財源を集めるために必要なことをいくつか考えてみましょう。

## 1.「今現在、どれくらいのお金がかかっているのか」を見える化しよう

実際にどれくらいのコストがかかっているのか、現状を整理しましょう。とくに、当初予定していた金額(計画)と実際にかかった金額(決算)のちがいに注目し、次の計画を作るときヒントを探しましょう。

【ポイント】計画どおりに進まないことは悪いことではありません。だからこそ、計画時に想定しえなかったことを振り返りましょう。  
例えば、  
①想定以上の需要があった → 支援者に働きかけて補填する  
②基盤整備のために必要だった → 投資として次期以降に回収する  
③予想していなかった支出があった → 見積方法を変更する  
④買いすぎた → 削る

どんな項目を？	具体的にどんなものを？	どれだけ使う予定だった？	実際にどれだけかかった？	その差はどうして発生した？	その差をどう考える？
人件費・交通費		円	円		
会場費・水光熱費		円	円		
消耗品費		円	円		
教材費		円	円		
印刷費		円	円		
通信費		円	円		
保険代		円	円		
		円	円		
		円	円		
	合計	円	円		

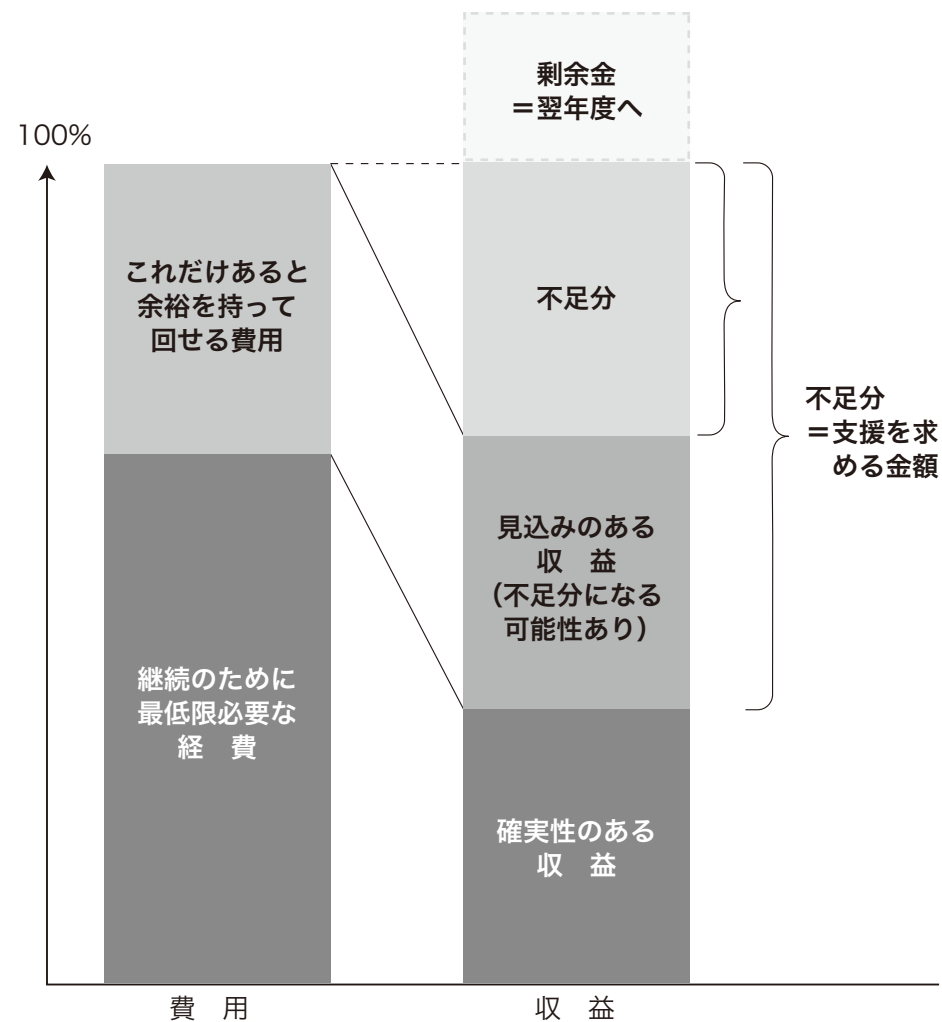
## 2. 目標額を決めよう

今期の決算を参考に、次期の目標金額を考えましょう

どんな項目を？	今期の決算	節約ポイントと投資ポイント	次期の予算
人件費・交通費	円		円
会場費・水光熱費	円		円
消耗品費	円		円
教材費	円		円
印刷費	円		円
通信費	円		円
保険代	円		円
	円		円
	円		円
合計	円		円

## 3. 収益見通しと資金集めの目標を考えよう

次期の予算を100としたときに、収益見込みはどの程度でしょうか？ 不足する分が、社会に支援を求めるための目標金額になります。何のために、いくら必要なのか、を明らかにしましょう。



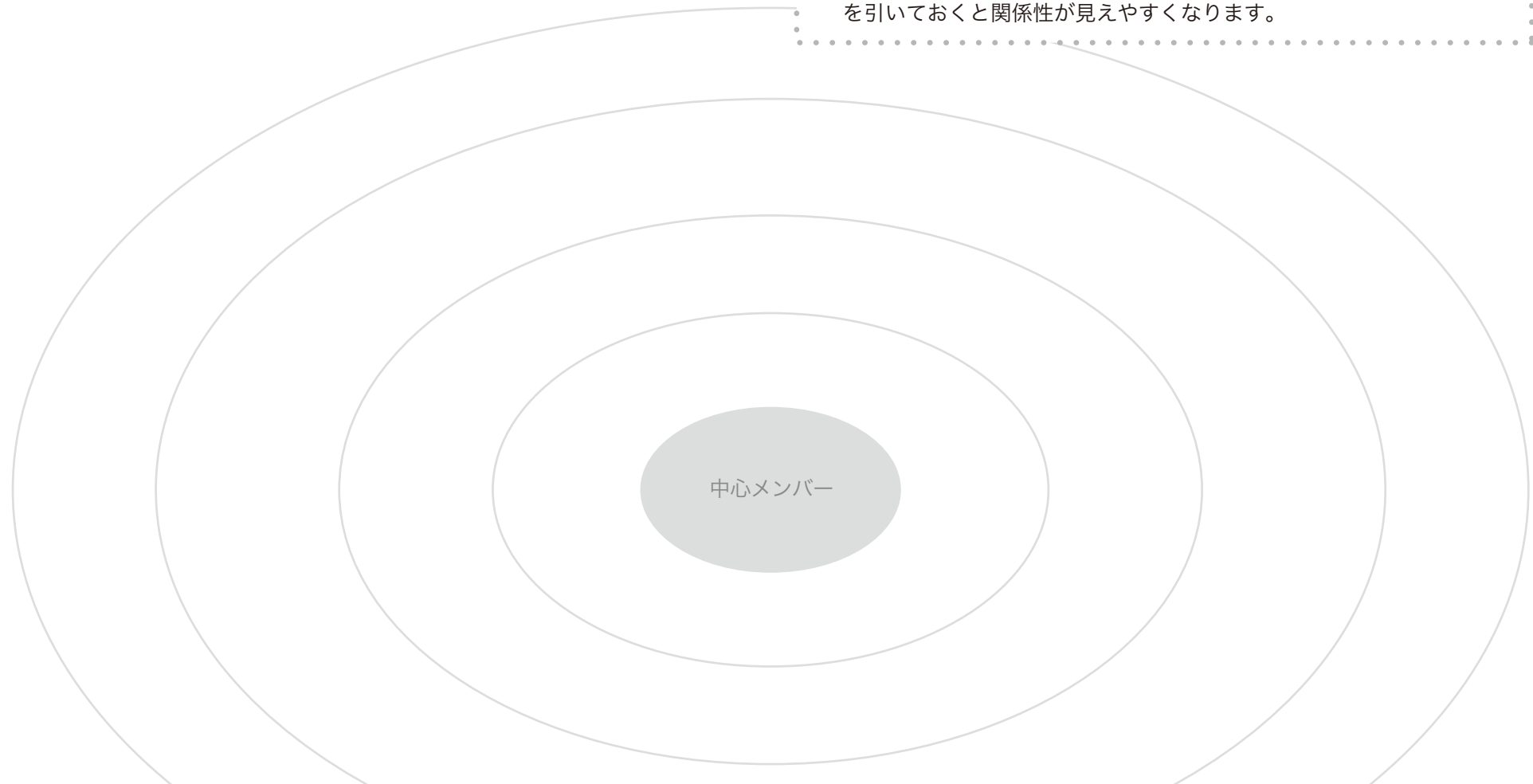
## Q2. 支援者をどうやって集める？

### 1. 団体に関わったことのあるさまざまな「関係者」を洗い出そう

団体の支援者を探すとき、まずは、これまで関わったことのある人を思い起こすところから始めてみましょう。これまでにどんな人と出会いましたか？ イベントの参加者、体験参加者、名刺交換した人・・・いろいろな手がかりをもとにわたしたちの「関係者」を掘り起こしてみましょう。

#### 【作成方法】

- ①たくさん関わっている人から、一度だけお会いしたような人まで、あらゆる人を思い出して、1人1枚のふせんに書きだしてみましょう。
- ②これらのふせんの中から職業や地域などで「仲間集め」しましょう。
- ③仲間ごとふせんを下の円に持ってきて、団体と関係の深い人から中心に寄せて配置していきます。外に行けば行くほど関係の薄い人です。
- ④仲間同士または仲間を超えてふせん同士でつながりがある場合は、線を引いておくと関係性が見えやすくなります。



## 2. どんな人が応援してくれそうか、考えよう

左ページにて浮かび上がった「関係者」の中から、特に応援してほしい人や応援してくれそうな人をピックアップして、アプローチする方法を考えましょう。

なるべく具体的に、エピソードつきで整理するとよりイメージしやすいです

どんな人が？	その人に期待する関わり方	その人はどんなことに共感しそう？	情報の届け方で意識するポイント	情報の届け方

## 3. 情報の届け方を考えよう

一口に情報発信・広報といっても、その手段は多様にあります。自分たちが今行っている手段から考えるだけでなく、情報を届けたい相手がどのような情報源と接することが多いか、といった相手視点から方法を考えることも必要です。

個別性



汎用性

主な手段	具体例やポイント	
個別面談	訪問など、直接会ってお願いする。電話などもをするときも。	
個別手紙 /E メール	その人ごとにアレンジしたお願いをするとより効果的。	
一斉手紙 /E メール	メルマガなどで一斉送信する。	
イベント開催	みんなと一緒に関わりやすい、という人向け。関心ある人を紹介してくれることも。	
WEB チラシやポスター	団体との「出会う入り口」を作る（これだけで支援は集まりにくい）。 団体のホームページや SNS。	
	チラシの主な配架先	公共施設、商業施設、銀行やコンビニ、バス停、テーマに関心ある店舗
	メディア	市の記者クラブ、地域ミニコミ誌
	各種団体	それぞれの事務所に届ける、掲示板に挟んでもらう



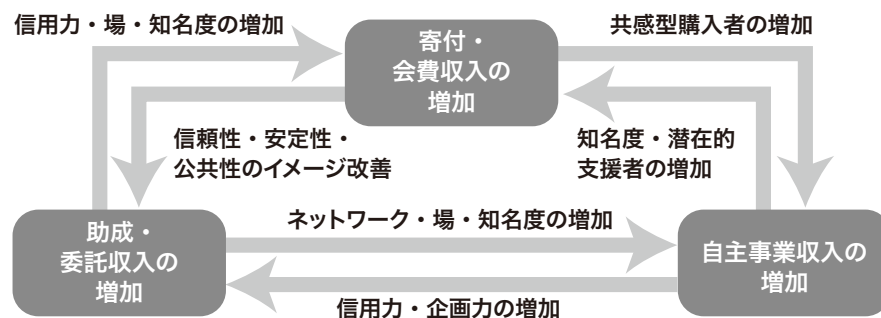
# コラム:さまざまな資金調達の方法を活用しよう

## ●市民活動にはさまざまな資金がある

活動を続ける中で「資金調達」は重要な課題です。市民活動の資金には大きく分けて以下の4つがあります。それぞれの特徴を踏まえてバランスを取るだけでなく、「相乗効果」を意図した資金調達方法を選びましょう。

種 類		主な特徴
支 援 性	1. 会費・寄付	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定性のある収入。小口が多いが、使いみちの自由度が高い。</li> <li>共感がポイント。継続的な関係を作るチャンス。</li> </ul>
	2. 助成金	<ul style="list-style-type: none"> <li>単発的で継続性、安定性に欠ける。使いみちは限定的。</li> <li>申請書や報告書などの作成負担も。</li> </ul>
事 業 性	3. 事業収益	<ul style="list-style-type: none"> <li>「参加料」や、「売上」がある。</li> <li>使いみちの自由度は高いが企画力や専門性が問われる。</li> <li>課税対象になる場合も。</li> </ul>
	4. 委託金	<ul style="list-style-type: none"> <li>金額単価が大きい。委託元の状況に左右されやすい。</li> <li>専門性や安定した事業実施体制が必要。</li> </ul>

※その他、「融資・疑似私募債」がある。いわゆる借入金で返済義務があるが、収益性の見込める事業を行う場合は、初期投資の資金調達として考えたい手法の一つである。



## ●助成金の特徴を理解しよう

助成金は企業や財団などから NPO へ提供される資金です。特徴を理解してうまく活用しましょう。

### 1. 助成金は「お見合い」である

助成金を出す側にも「思い」があります。彼らは自ら課題解決に取り組むのではなく、必要な資金を提供することで間接的に課題解決に取り組もうと考えており、直接的に取り組むパートナーを求めています。まさに「お見合い」ですね。助成側の期待すること＝募集要項を熟読し、思いを汲み取るようにしましょう。

### 2. 助成金は「きっかけ資金」である

新規事業・事業変更などの「きっかけ」を応援する資金という特徴があります。「何をするのか」が期待されるので、スタートアップに良いですが、継続活動の経費・管理費には使えないことや継続的に採択されにくいのも特徴です。

助成金の主な特徴	助成金で気をつけること
<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまった金額が入る</li> <li>団体の信用度が高まる</li> <li>助成金以外の資源（助成団体同士のネットワークなど）も得られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単年度。使いみちが限られている</li> <li>自己負担金が求められる場合もある</li> <li>精算払の場合、事業費を立て替える必要がある</li> <li>書類管理・記録などの事務作業が増える</li> <li>助成団体ごとに必要な様式・情報が異なる</li> </ul>

## ●どうやって助成金を調べるの？

助成金は全国で 1000 を超えていると言われており、一つひとつを調べるのはとても大変です。各地の中間支援組織が情報をまとめているので、聞いてみると良いでしょう。事業計画書などへのアドバイスも乗ってくれます。

### <主な助成金情報をまとめている主なサイト>

- ・シーズ・市民活動を支える制度をつくる会  
<http://www.npoweb.jp/topics/news/subsidy/>
- ・CANPAN 助成制度データベース <http://fields.canpan.info/grant/>
- ・助成財団センター <http://www.jfc.or.jp/grant-search/guide/>



## ●さまざまな資金調達方法

インターネットの普及、企業の社会貢献の進化、寄付文化の広まりや税制優遇の進展などから、市民活動を支える資金も多様になりつつあります。地域の間接支援団体の力を借りながら、さまざまな方法を検討してみましょう。

### 1. コミュニティ財団の登場

これまでの助成財団は「テーマ」ごとに「中央」に存在するものが多くありましたが、「地域内での資金循環」の促進を目指した「コミュニティ財団」が各地で登場しています。それぞれの地域事情に即し、助成の柔軟性を高められるよう、コミュニティ財団ごとに多様な助成・支援プログラムが展開されています。

【参考：全国コミュニティ財団協会】

### 2. インターネットを使った寄付募集

新しい取り組みを始めるときにインターネット上で資金を募集する「クラウドファンディング」という手法が知られるようになりました。手数料はかかりますが、インターネットの力を使ってその思いに共感する人と出会う可能性が格段に増えました。また、クレジットカードを使っての寄付やポイントカードのポイントを寄付するというメニューも登場しています。ただし、クレジットカード寄付は決済システムの導入コストがかかりますので、注意が必要です。

### 3. もったいない系寄付

MOTTAINAI は古くて新しい言葉ですが、「団体との出会うきっかけ」として作りやすい取り組みです。未使用切手や書き損じハガキなどの収集といった古くからある取り組みに加え、例えば古本寄付や古着寄付など、直接業者や地域の企業とつながることで資金を得るような新しい取り組みが展開されています。活動に関心持ってください店舗に募金箱を置いておつりを寄付していただく取り組みも、工夫ひとつでたくさんの支援が集まります。

## ●支援をお願いする時に、改めて考えたいこと

寄付募集は単にお金を集めるだけでなく、仲間集めともいえます。社会の困りごとを良くしたい、目の前の子どもの可能性を広げたいとする私たちの「仲間」を集めるにあたって、改めて考えたいことをまとめました。

### 1. 団体のこれまでとこれから、を整理しよう

応援してもらうためには、まず私たちのことを知ってもらう必要があります。活動を始めたきっかけの思いや夢、メンバーの特徴、参加している子の様子、地域事情、資金繰り、応援してくれる多様な仲間や地域とのつながりー 私たちが得意としていること・苦手としていることも含めて、（言う言わないはともかく）団体のこれまでとこれからを伝えられるように準備しておきましょう。

### 2. お礼をしっかりと

お礼は大切です。しかし、一度寄付いただいた人に「ありがとうございます」と何回伝えていきますか？ 寄付大国といわれるアメリカでも、いただいたときのお礼だけでなく、お願いとお礼を7回繰り返さないと定着しない、と言われていたそうです。

寄付いただいたということは活動に関心を持ってもらったということ。その「関心」をより定着させるために私たちにどのようなことができるのでしょうか？「いただいた資金はこんなふうに使われています」というメッセージをはじめ、どんなタイミングでどんな内容を伝えると喜んでもらえるか、さらに応援しようと思ってもらえるでしょうか？

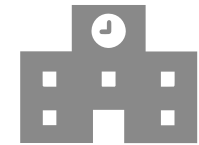
寄付も「参加」のひとつです。一度きりのあいさつにとどまらず、お礼＝コミュニケーションとして継続的な関わり方を提案できるように準備しましょう。

## Q3. 地域のさまざまな資源とつながるには？

1. 地域資源マップを作って、私たちが活動する地域にはどのような人や組織があるかを洗い出してみましょう。ふせんに書いて貼ってみましょう。



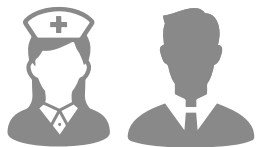
地域コミュニティ



学校



学習支援の場



専門家・士業



役所・公的機関

## 2. 左のページで書き出した人・組織の中から、これから特に関わっていきたいと考えている人は誰ですか？

【ポイント】  
p.20 で作成したマップの登場人物で、きっかけづくりに協力してくれそうな人がいないか探してみましょう。

属性	立場	期待する関わり方は？	立場上の特性・気にしそうなことは？	きっかけをどうつくる？
地域				
学校				
行政				
支援者				

# Q4. 活動する上での「リスク」を考えよう

## 1. 発生しそうなリスクを洗い出そう

活動にはさまざまな「リスク」を伴います。リスクは実際に起こった事故だけでなく、ヒヤリとしたことやちょっとした違和感までひっくるめて考えます。これまでの活動で、「そういえば…」と気になることはありませんでしたか？どんなに小さいことでも良いので、思いつくものをふせんに書き出してみましよう。



### ミニコラム：ハインリッヒの法則（1:29:300）

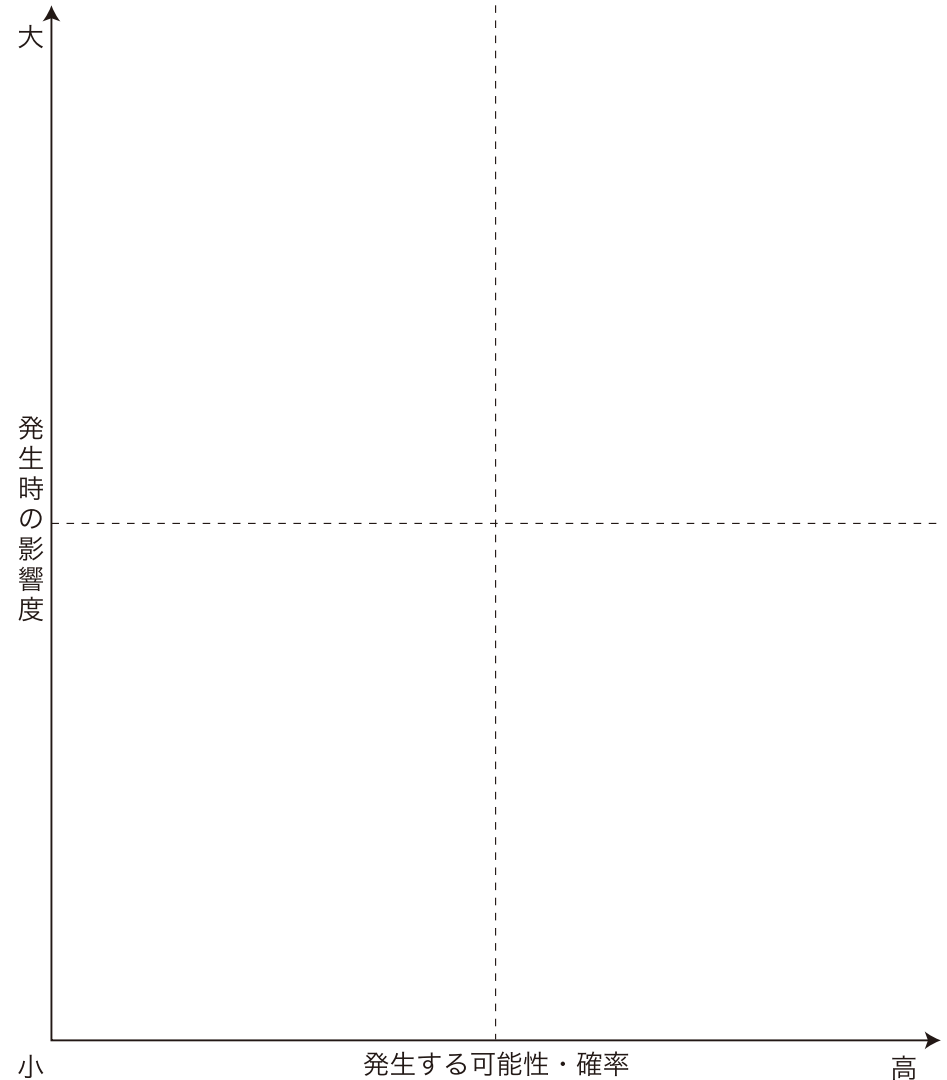
1つの重大事故の背景には、29の軽微な危険があり、その背景には300のヒヤリとする背景が存在する、という労働災害の経験から言われている法則です。

つまり、重大な事故は、軽微な危険を防いでいけば発生しないですし、軽微な危険はヒヤリとするような背景を防いでいけば発生しないものであるということとも言えます。ちょっとしたこと（ヒヤリ）を見逃さないことが重大な事故の発生を予防につながり、そのために日頃からスタッフで情報共有することが大切です。



## 2. 書き出したリスクを「リスクマトリックス」に当てはめてみよう

ふせんに書いたリスクごとに「影響度／発生する可能性」を考えてみましょう。下の表のどのへんに位置するでしょうか？貼ってみましよう。



### 3. 書き出したリスクに対して、対応を考えよう

memo

一般的に、表の4つのゾーンごとに対応を分けて考えます。

#### I 右上=発生確率が高く、発生したら影響が大きい

頻繁に起きる致命的なリスクで、非常に危険です。

ただちに対策を取り、それまでは「中止」を考えます。

#### II 右下=発生確率は高いが、発生しても影響は小さい

日常的な小規模のリスクです。

発生確率を下げるための「改善策」を考えましょう。

#### III 左上=発生確率は低いが、発生したら影響が大きい

偶発的だが起こると致命的なリスクです。

プログラムの改善に加え、「保険」をかけるなどの対応を行います。

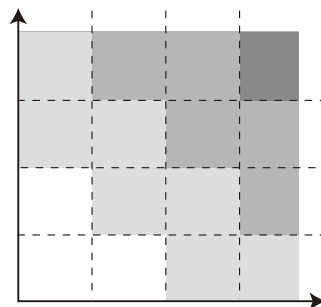
#### IV 左下=発生確率も低く、影響度も小さい

めったに起きない小規模のリスクです。

プログラムを改善しつつ、注意をしながらこのまま続ける方法を選びます。

#### 【参考】

左の表では大きく4分割しましたが、3×3の表で整理・分析したり右のような考え方で分けることもあります。





# コラム:しんどい思いをしている子どもがこれ以上増えないように ～社会に訴えかける「アドボカシー」の視点をもって活動しよう

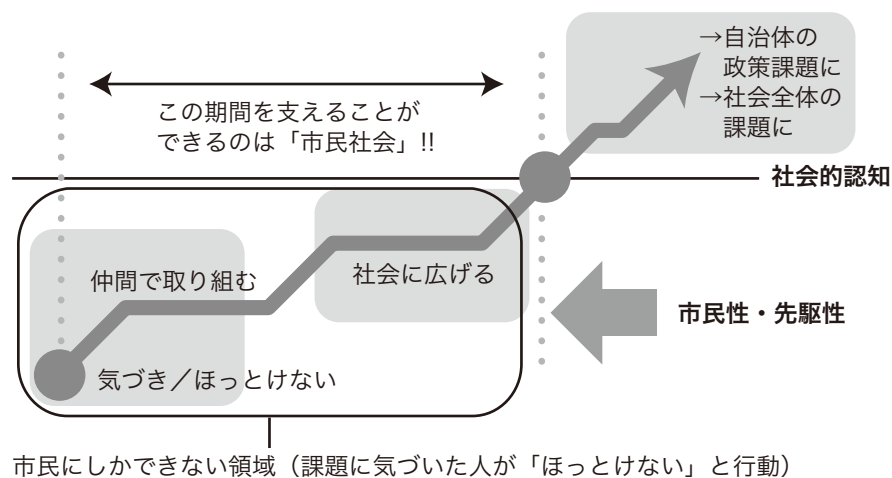
私たちの取り組みは、営利追求ではない、社会課題の解決を目的とする活動です。生活の中で「おかしいな」、「理不尽だな」と気になったことを「ほっとけない」と思い、自発的に解決に向けて動きはじめます。

その思いに仲間が集まることで規模も拡大し、少しずつ解決に近づけていくことができます。しかし、この時点ではまだ社会的に十分に知られていません。だからこそ、仲間を集め、声をあげていくことで、少しずつ社会に浸透していくのです。

一方で、自治体は公平性・平等性を原則に活動します。ある課題が社会に認識されるようになって初めて、自治体の課題として取り組むことになります。担当者がどんなに問題意識を持ったとしても、「それって大事だよな」と支持する市民の声がないと動けないのです（市民を代表する議会・政治家の動きも必要です）。

龍谷大学・深尾昌峰氏は、右の図を用いて解説しています。政策課題として認識され、政策として取り組まれるまでの期間を支えることができるのは、私たち「市民」しかいないのです。例えば、以前は「家庭内のいざこざ」で済まされていたDV（家庭内暴力）が、「暴力」として認識されるのにかかった年数は約30年だそうです。この間、社会に訴え続ける市民がいたからこそ、今こうやって支援事業が展開されているのです。

「子どもの貧困」や「学習支援」も、ただそれだけをとっては「社会課題」ではありません。私たちが寄り添う子どもや親の声から、彼らが抱えるしんどさや社会の理不尽さを「代弁」し、発信していくことが求められています。そして、思いに共感する仲間を集め、多様な「参加」を促していくことが地域をしなやかで強いものにしていくものと思われまます。



深尾昌峰氏の講演資料より



# おわりに ～「変なおとな」が子どもの可能性を豊かにする!?

「学習支援」が全国各地で取り組まれています。国の施策である「生活困窮者自立支援法」に基づく子どもの学習支援事業は、平成 29 年度の調査で 504 自治体が導入しており、この 2 年で 67% 増となっています。元から民間主導で行っている事例も含め、実施する自治体が増えているということは、それだけ学習支援に期待されている役割があるということでもあるのでしょう。

「学習支援」の場には、学力向上にとどまらない意義があると私たちは考えています。例えば、親戚づきあいや異年齢の近所のお兄さんお姉さんとの交流が薄らいでいる現在、親や先生以外の「おとな」との出会いを通して子どもたちが得られる体験や気づきは、子どもたちの生き方やものの考え方にも影響を与える可能性があります。家庭や学校ではなかなか触れることの少ない「いろんな人の生き様」との出会いが学習支援の現場にはあり、子どもが多様なものの見方や考え方と出会う可能性があるのです。

家庭や学校「ではない」学習支援の現場だからこそできることは何でしょうか？学習支援の単に学習を目的にしないためにも、団体のみなさん同士で、そしてさまざまな学習支援団体同士でアイデアを出し合っていくことで、お互い気づきと成長を得ていきたいと願っています。

## 学習支援団体の運営アドバイザーを派遣します

自分たちの活動の現状を整理したい、第三者的なアドバイスがほしい、これからの展望を描く伴走支援がほしい、など、学習支援に取り組む中での悩みごとをお持ちのみなさまへ。NPO 支援（中間支援）と学習支援（直接支援）の双方の実戦経験をもつアドバイザーをみなさまのもとに派遣します。まずは、気軽にお問い合わせください。

\*費用については別途ご相談ください。

## より深めたい方に、「ガイド」をお使いください

本冊子は、書き込み型のワークシート形式を意図して作成しました。したがって、どんなことを書けばよいのかといった例示や視点の広げ方などの展開のアドバイスについては、十分に記載できていません。そこで、この冊子をより有効に活用するための「ガイド」を作成し、公開しています（PDF でダウンロード可能）。この冊子を用いて、団体内でどのように議論を深めていくか、そのポイントをファシリテーター目線でまとめています。どうぞご利用ください。



[http://batotsunagari.net/gakushushien\\_pamph/](http://batotsunagari.net/gakushushien_pamph/)

また、本冊子および、これから学習支援を始めたい人向けの冊子『「学ぶ」を支える場づくりのコツ～学習支援立ち上げハンドブック vol.1』も同ページにてダウンロードいただけます（無料）。合わせてご利用ください





本冊子についてのお問い合わせ

NPO法人 場とつながりの研究センター  
〒669-1533 兵庫県三田市三田町 29-14  
電話079-553-2521 FAX 079-553-2522  
Email :info@batotsunagari.net  
URL: <http://batotsunagari.net>



本冊子は、公益財団法人ベネッセこども基金「平成28年度 経済的困難を抱える子どもたちの学習支援活動助成」を受け、作成しました。